

1、東日本大震災における対応 ～福島原発から10km圏内を搜索～



巡視船内での搜索の様子



福島原子力発電所から7キロメートル付近に位置する請戸漁港における搜索活動

2、ゴールデンウィークに安全推進活動



プレジャーボート乗船者に安全指導する海上保安官



海上保安官による心肺蘇生法講習会



救命胴衣の着用を呼びかける啓発活動

海上保安庁では、5月16日及び25日、浪江町請戸漁港及び周辺海域（福島第一原子力発電所から10キロメートル以内）において行方不明者の搜索を行いました。同海域での搜索には放射線防護の装備が必要であるため、海上保安官は黄色や白色の防護服に身を包み行方不明者の搜索を実施しました。なお、この2日間の搜索において、行方不明者の発見には至っていません。

海上保安庁では、4月29日から5月8日までの間、ゴールデンウィーク安全推進活動期間として、全国各地において、定期巡回、訪船指導や海難防止講習会を実施しました。期間中、プレジャーボート乗船者に見張りの励行や救命胴衣着用など海難防止を呼びかけたほか、レジャースポットにおいてもリーフレットを配布し、自己救命策 3つの基本（欄外参照）について指導を行いました。

○かいほニュースは海上保安庁ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kaihonews/index.html>

海上保安庁 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
03-3591-6361（代表）
（編集・企画）海上保安庁総務部政務課 政策評価広報室

～自己救命策 3つの基本～

海に落ちても沈まない
ライフジャケット
の着用

1



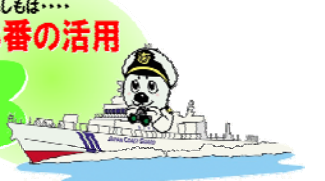
家中でも大丈夫（防水バッグの使用）
携帯電話の携帯

2



海のもしものは……
118番の活用

3



3、人材育成の国際的拠点を目指す ～アジア海上保安初級幹部研修開講～



海上保安庁長官、日本財団会長及び
アジア海上保安初級幹部研修生

5月9日、海上保安庁は日本財団及び(財)海上保安協会と協力し、海上保安大学校（広島県呉市）において、アジア海上保安初級幹部研修を開始しました。本研修は、海上保安庁職員を含むアジア各国の海上保安機関の初級幹部を参加させ、幅広い知見と国際的な視野を持った人材育成を行うとともに、研修員の相互理解を通じて、アジア各国海上保安機関の連携強化を図ることを目的としており、将来的には海上保安大学校がアジアの海上保安機関の人材育成の国際的な拠点となることを目指しています。

4、練習船「こじま」、世界一周の遠洋航海へ



遠洋航海へ出港する練習船「こじま」

5月9日、海上保安大学校（広島県呉市）の練習船「こじま」は、総日数95日、総航程約46,300キロメートルに及ぶ世界一周の遠洋航海のため呉を出港しました。出港後はホノルル、ニューヨーク、イスタンブール、シンガポールへ寄港し、各国の海上保安機関との交流の他、洋上では訓練・実習などを行い8月11日、再び呉に帰港することになっています。実習生35名は、学生音楽隊による演奏、応援団の声援の中、見送りの方々に敬礼と帽振れで応えながら大学校棧橋を後にしました。

○かいほニュースは海上保安庁ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kaihonews/index.html>

海上保安庁 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
03-3591-6361（代表）
（編集・企画）海上保安庁総務部政務課 政策評価広報室

海の「もしも」は**118番**

